

京都市基本構想に おける関連記述

生涯学習

～魅力あふれるまち～

市民文化の成熟にはまた，まちづくりを主体的に担っていくようなひとづくりが不可欠であり，とりわけ子育てや教育の役割が大きい。また，生涯にわたって，みずからを磨き，高める機会に恵まれていることも必要である。ここで大切なのは，京都市民が時間をかけて培ってきたいくつかの卓越した能力を改めて思い起こし，次の時代に向けてさらに磨き上げていくことである。

これまでの主な取組

- ①京都市生涯学習新世紀プランを策定し，生涯学習施策を総合的・体系的に推進
- ②京都ならではの各種生涯学習施策を展開
- 「大人として子どもたちのために何ができるか」を考えて行動する「人づくり21世紀委員会」の活動（H10～，H21 現在101団体が加盟）
- 学校休業日に，まち全体で子どもたちに多様な学習の場を提供する「みやこ子ども土曜塾」を推進（H16～）
- 保育・教育・医療・福祉の専門家が子育てをバックアップ。約700名の市民ボランティアと共に運営する子育て支援総合センター「こどもみらい館」（H11～）
- 学校の余裕教室を改修整備する「学校ふれあいサロン事業」など，学校を拠点とした生涯学習の推進と地域コミュニティの活性化
- 京都精華大学との連携により，元龍池小学校を活用し「京都国際マンガミュージアム」を開設（H18）
- 市立図書館全館の図書情報のネットワーク化やインターネットでの貸出予約など図書館サービスを向上

論点1 現状と課題

- ◇ 活かすべきチャンス(機会)は？ 放置できない問題(脅威)は？
- ◇ 活用できる資源(強み)は？ 克服すべきもの(弱み)は？

活かすべきチャンス(機会)	放置できない問題(脅威)
【学習資源の充実】 ○大学，博物館，文化財，伝統産業から先端企業などが集積する京都の都市特性 ○NPOやボランティア団体など民間の生涯学習関係団体による多様な学習機会 【人の繋がり】 ○学校を拠点とした地域活動 ○PTAが主体となった様々な取組の広がり ○おやじの会の充実・拡大 ○人づくり21世紀委員会の活動 ○女性会をはじめとする地域諸団体の活動 ○多くの市民ボランティア活動	【物質文明の行き詰まり】 ○新たな現代的課題（環境問題，インターネット・携帯電話の弊害，メディア依存など） ○実体験を伴わないバーチャルな世界の氾濫 ○自然や生命を大切にする心・精神文化の希薄化 ○社会全体のモラルの低下 ○夜型生活への移行，生活リズムの乱れ 【家庭の危機】 ○子育ての不安感や負担感の増大，子育ての孤立化の進行 ○子どもに対する虐待 【地域力の低下】 ○地域コミュニティの希薄化

活用できる資源(強み)	克服すべきもの(弱み)
【意識の高まり】 ○「子どもを共に育む京都市民憲章」の制定 【学習機会の充実】 ○「みやこ子ども土曜塾」の充実 ○全小学校での「放課後まなび教室」実施 ○「歴史都市・京都から学ぶジュニア日本文化検定」の定着 ○京都国際マンガミュージアム，学校歴史博物館，図書館やアスニー等における学びの機会の増加 ○民間の生涯学習関係団体の増加 ○図書館のインターネットでの貸出予約 ○京都市内博物館施設連絡協議会加盟施設の増加 ○「子どもを共に育む親支援プログラム」の策定・実践	【生涯学習の充実】 ○市民の多様な学習需要の適切な把握と，それに応じた学習機会の提供 ○情報通信技術を活用した学習機会の充実 ○より多くの市民の生涯学習の場への参加促進 【社会全体での取組】 ○親に対する子育て支援（親支援）の充実 ○父親の子育て参加に向けた企業等での取組 ○仕事と生活の調和（ワークライフバランス） ○産・学・官・市民の役割分担の明確化と協働 ○生涯学習を通じた地域コミュニティの活性化 ○若者の社会参加

論点2 政策の基本方向

- ◇ 今後10年間の基本的考え，価値観は？

これまでの動き

<現在の方向性>

- 共に学び，共に汗して進める生涯学習のまちづくりの推進
～「グッとくる」まち 京都をつくろう～
- ・まち全体が学びの場～京都ならではの「地域力」～
- ・学びの還元～京都ならではの「人間力」を結集
- ・次世代育成～子どもを共に育む機運の向上～

論点3 市民と行政の役割分担と共汗

- ◇ 政策の推進に当たって市民や行政が行うべきことは？

論点4 10年後に目指すべき姿

- ◇ 10年後のあるべき姿やそれが達成された状態を測る指標・目標値は？